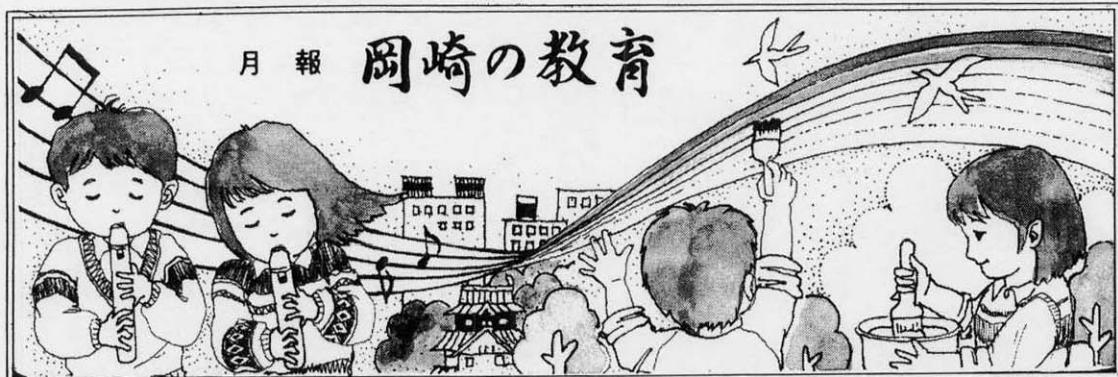


月報 岡崎の教育



10月号

額に汗

慣れない手つきで穴を掘る
丸太をたて、ベンキを塗る
ベンチ、テーブル、鳥小屋が
次々と姿を見せる

夏休みの職員作業

手づくりの遊び場づくり

夏休みの職員作業

手づくりの遊び場づくり

さわやかな青空

広場は子どもでいっぱいだ
さっそく、チャボとにらめっこ
丸太を跳びはね、鬼ごっこ
笑顔が行き交い

明るい声が響く

心が和み

夢が広がる
憩いの広場

ふれあい広場
「なかよし広場」は

城南つ子、自慢の広場

(なかよし広場)

昭和63年10月1日
発行 / 編集
岡崎市教育委員会



(あいさつ運動・ゴミゼロ運動 - 城南小)

— 教育隨想 —

国際化について考える

日 高 武 雄



臨教審答申の大きな柱は、個性化・国際化・情報化そして生涯教育体系化であつた。このうち情報化・生涯教育大系化

への進展には、制度・組織・財政等の比重が、まず第一に大きな問題となろう。しかし個性化・国際化は、何千年もかかって營々として積上げられてきた日本民

族の成立過程で、骨の髓にまで染み込んだ所の、人間内面の大改造といえる。それはおそらく、世紀にわたる世代交代

の繰返しと、民族のたゆまぬ努力の積み重ねによって、次第に実現するものであろう。当分は混乱状態の中での皮層的な国際化や個性化が横行し、失敗や反省が繰りされ、行くものと考える。

個性化・国際化は、時代的な要請から特に必要性が叫ばれているが、中でも国際化の必要性は緊急を要する問題である。今日、海外の日本人の問題事例が時折り

指摘されるたびに、同一民族の一人としてまことに恥ずかしい思いがする。

起こそさずともよいトラブルを起こして、

現地の人々の憎悪を買いつてはノイロ

ーゼや自殺にまで追い込まれる日本人も多いと聞く。

「最早世界に学ぶべきものは無い」など、思い上った豪語を吐いた

経済人もいる。年間数百万人におよぶ外

国旅行者の思慮の無い行動や、海外進出

企業の日本式の押し付けなど、日本人の

身勝手さや傲慢さに対する非難・トラブルが後を絶たないという。日本人はあまりにも無神經である。経済大国は世界の

人々のせん望の的で、どこに行つても尊

敬されるものと思い違えている節がある。

それは、とんでもない誤りであり、日本のマスコミは、日本憎しきあまり、日本

のライバルなら誰でも大歓迎だそうでも喜ばしいといった記事が多いと聞く。このままいきになつていたら、尊敬されるどころか、日本は世界中から孤離されるであろうと、真剣に憂えている人も多い。国際依存で生きていた日本人は、何時までも自分勝手な独りよがりで、世界中で稼ぎまくつていらるるはずがない。

金持ちが人に好かれるのは至難の技であり、世界経済の二十%にもなりそうな状況は、極めて危険である。

緊急を要する手段としては、世界にコムニケイト可能な日本代表の国際人をまず第一に大量に養成すること。

そして、長期的には、学校教育の中で、

世界の国々の文化や風俗・習慣・歴史・

宗教、更に価値感の違い等を学ばせ、そ

れらを通して、世界のさまざまな民族や、

種族の人々を理解し尊敬する気持ちを養

うよう、独立した教科・科目を設定する

ことが必要であると考える。

臨教審答申の中に、このような具体的なことがある。ではと考へたが、何一つ

緊急かつ着実な対策の示されなかつたことが、残念に思えてならない。

(岡崎高等学校長)

羅針盤

算数・数学科指導員



体験的な学習

内堀 博之

体育館いっぱいに、平均台が並べられ

ている、マットが敷いてある、タイヤが

ころがしてある。これは体育の授業では

なく、小学校三年生の算数の授業風景で

ある。「秘密基地の指令」という設定で

広い体育館を動き回り、いろいろなもの

を測定していく。真剣な表情である。こ

の学習で、ものさしや巻尺の使い方、目

盛りの読み方で壁にぶつかる。それを、

グループで話し合つてみごとに解決したり修正していく。先生が細かい指導を

なくとも、すばらしい学習が成立したのである。

+1から+9までのカード、-1から-9まで

のカードを各自が持つて二人ペアでカード取りゲームをする。+3のカードを取

ると自分の持ち点が増えたと喜ぶ。-6の

カードを取ると残念がる。+7のカードを取られると残念がり、-5のカードを取ら

ると喜ぶ。正の数・負の数の加法減法

岡崎世界子ども美術博物館の南の山の斜面に鉄骨や木造の豚舎が見られる。ここが、祖父の代から種豚飼育に情熱を傾けてこられた小久井牧場である。

場長は小久井正秋氏で、愛知県種豚農協原種豚研究部会長の役にもついておられ対外的にもお忙しい方である。

「飼育しているのは、オランダ産のランドレースで、おすすめす合わせて五十頭ほどです。会社勤めのよう休日はありませんが、毎日顔を合わせていると情が移つて可愛いものですよ。」

と日焼けした顔で、にこやかに応対して下さる。当牧場での年間の分娩頭数は七

百から八百頭にも及び、それらが生後五六ヶ月で出荷される。出荷先は、国内だけでなく韓国・台湾にもと聞き、その広範囲なのに驚かされた。

「原種を維持していくことは、血液の純粹さを保つことなのです。同じ牧場だと近交退化といって、質の悪い豚が出ることがあるので、熊本県の同種の豚を飼っている人と、お互いに行き来して研究し合っています。」

小久井牧場の歩みは、昭和二十八年に正秋氏の祖父の種豚一頭の飼育から始まつたのである。それから今日まで、市・県の関係機関の指導・援助があつて徐々に飼育頭数を増やし、豚舎も初めは手作りで増築したとのことである。

「若気の至りで、学校を卒業したては、会社勤めをしていましたが、昭和四十年から家業を継ぐことにしたのです。親の代より規模を大きくしようと計画しましたが、借金をしてまでもと大反対に合いました。そこで、今まで家がやつてきた純粹種の飼育の経験を生かして、ブリーダーを目指したのです。」

親の代では、ヨークシャーの純粹繁殖を行つておられたが、正秋氏は、多くの品種の中から、より実用性の高い基礎豚として改良していこうとラントレースを選びました。昭和六十二年の秋、県豚共進会での農林大臣の名賞賞が最近の大賞である。それまでも幾度かの賞を得られ、ラントレースの小久井と言えば、その道では知らぬ人はないという地

位を築かれたのである。正秋氏は、種豚飼育だけでなく水田耕作・大豆・小麦の栽培をも手がけておられる。

「経営の基本は、用地面積・飼育頭数・労働力のバランスです。例えば、飼育頭数を増やすならば、糞尿処理も万全でなければいけません。うちでは、オガクズ・ワラなどを使つてたい肥を作り、耕地に還元しています。東部農協の下で請負耕作をしていますが、たい肥のお陰で地力もつき、作物の色も違うので皆さんに喜んでもらっています。」

与えられた条件を生かし、生産性を高めて行こうを努力している専業農家の姿をうかがい知ることができた。

読み聞かせによる読書指導に、遊びを取り入れた時の生き生きした姿。その中で、「チンパンジーの足の裏も手と同じ」とことを発見し、きちんと読み取っている。読むことより、むしろ、聞くことへの指導が、読もうとする力を培っている。学級指導や学習の中に、資料を活用しようとする、日頃の教師の姿こそ、図書館教育への大きな歩みとなる。

種豚飼育・県一

小久井 正秋 氏

ふるさとシリーズ

この人に聞く



百から八百頭にも及び、それらが生後五六ヶ月で出荷される。出荷先は、国内だけでなく韓国・台湾にもと聞き、その広範囲なのに驚かされた。

「原種を維持していくことは、血液の純粹さを保つことなのです。同じ牧場だと近交退化といって、質の悪い豚が出ることがあるので、熊本県の同種の豚を飼っている人と、お互いに行き来して研究し合っています。」

小久井牧場の歩みは、昭和二十八年に正秋氏の祖父の種豚一頭の飼育から始まつたのである。それから今日まで、市・県の関係機関の指導・援助があつて徐々に飼育頭数を増やし、豚舎も初めは手作りで増築したとのことである。

「若気の至りで、学校を卒業したては、会社勤めをしていましたが、昭和四十年から家業を継ぐことにしたのです。親の代より規模を大きくしようと計画しましたが、借金をしてまでもと大反対に合いました。そこで、今まで家がやつてきた純粹種の飼育の経験を生かして、ブリーダーを目指したのです。」

親の代では、ヨークシャーの純粹繁殖を行つておられたが、正秋氏は、多くの品種の中から、より実用性の高い基礎豚として改良していこうとラントレースを選ばれたのである。昭和六十二年の秋、

奈良大仏殿建立の最新情報を新聞記事からとり、学習に生かす授業や、書目づくりを通して利用のしかたを学習する授業など、先生方の資料化の気配りが、常日頃から當まれていていることを示す。

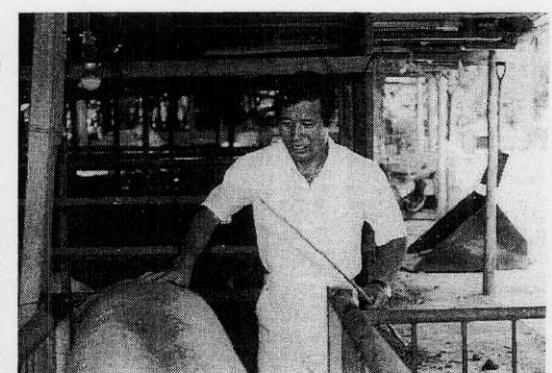
「うわあ、恐竜の足だ。」「これ、先生の足のうらだよ。」

読み聞かせによる読書指導に、遊びを取り入れた時の生き生きした姿。その中で、「チンパンジーの足の裏も手と同じ」とことを発見し、きちんと読み取っている。読むことより、むしろ、聞くことへの指導が、読もうとする力を培っている。

図書館教育初めの一歩

図書館指導員

中根 洋



が理解していく。中一の授業である。自ら学ぶ意欲を高め、主体的な学習の仕方を身につける観点から、このようないきいきとした活動を通じて、うな体験的学習を大切にしたいものだ。

野坂昭如の「厭になつたお母さん」を朗読テープで聞き終えた時のことである。中二のある男子生徒が、「久しぶりに感動したなあ」と、思わずつぶやいた言葉を今でも忘れない。

子供の心に息吹を与える偉大な力が、図書館教育を通して發揮されるような配慮の大切さを痛感した。

奈良大仏殿建立の最新情報を新聞記事からとり、学習に生かす授業や、書目づくりを通して利用のしかたを学習する授業など、先生方の資料化の気配りが、常日頃から當まれていていることを示す。

「うわあ、恐竜の足だ。」「これ、先生の足のうらだよ。」

読み聞かせによる読書指導に、遊びを取り入れた時の生き生きした姿。その中で、「チンパンジーの足の裏も手と同じ」とことを発見し、きちんと読み取っている。読むことより、むしろ、聞くことへの指導が、読もうとする力を培っている。

学級指導や学習の中に、資料を活用しようとする、日頃の教師の姿こそ、図書館教育への大きな歩みとなる。

(生年月日 昭和二十二年十一月三日)
自宅 岡崎市岡町森東前四十一)

フフホト

友好訪問

使節団だより



蒙古族幼稚園▶
(3日目)

表情が日本人そっくりの園児が熱烈歓迎の意味で民族衣装を身につけ、鼓隊の演奏をしてくれた。



◀蒙古族学校（3日目）
トモト中学校

日本語の上手な
中学生の司会で民
族舞踊を披露。



▶プレゼント交換
(3日目)

お互いにプレゼントを交換し合い、ペンフレンド
をきめて「再見〈サイチエン〉」をちかい合った。



▲フフホト市庁舎（3日目）

市制40周年を記念して最近建て
かえられた7階建の立派な市庁舎。

昭和六十二年に友好都市締結がなされた中国の呼和浩特市へ、岡崎市から第一回の中学生友好使節団が派遣されました。

七月五日から十三日まで九日間の訪問でしたが、蒙古族のようすを中心に、付添の大山糸先生（北中教頭）撮影の写真でフフホト市友好訪問のようすを紹介します。

◆メンバー

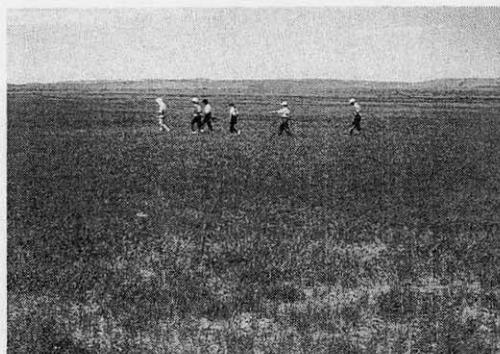
宇野 仁（岩津中）多湖健太郎（六中）

付添

由良隆幸（河合中）大畑 恵（矢北中）

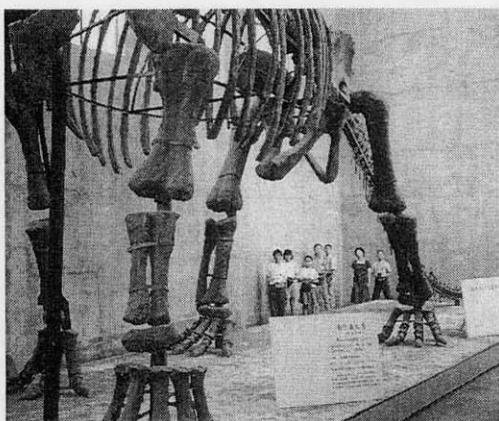
小楠典子（竜海中）三井好美（矢中）

大山糸先生（北中）鈴木三枝子先生（竜海中）



▲大草原（5日目）

パオのまわりは、どこまで歩いても草と土。木は一本もなかった。



内蒙博物館（四日目）

内蒙は「化石の郷」といわれ、博物館には巨大恐竜の化石が展示されていた。



▲王昭君の墓（6日目）

漢民族とモンゴル族とのかけ橋となった王昭君の墓。

雑技団の演奏▶
(5日目)

パオ村では使節団のため雑技団が演奏をしてくださった。



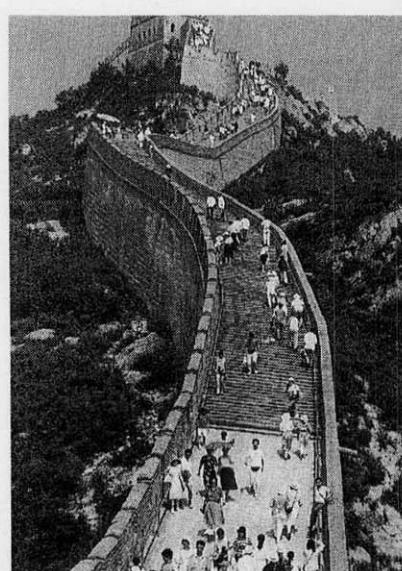
◀蒙古班（5日目）

パオ村での歓迎レセプションスピーチで、日本人と蒙古人に共通の蒙古班についてスピーチをすると雑技団の母親が自分の子どものおしりを見せて共鳴した。



▼パオ村（5日目）

フフホト市から車で3時間ぐらいたなれた大草原中のパオ村。

◀万里の長城
(8日目)

最後の見学地万里の長城のはてしない長さにおどろく。



ぼくらの農園

竜美丘小 酒井 久男

「ウアーツ、すごくおいしそう。つやつやした紫色がとても

きれい！」お母さんは漬物にしてもらうんだ。」「トマトは、そのままかぶりつくのがいちばんうまいぞ！」七月初旬、学級の子供たちと、春以来、世話をし続けてきた野菜の収穫が始まつたのだ。その名も「すくすく農園」、文字通り、野菜もぼくらもすくすく元気よく伸びようという願いから名付けた。響きもよく、私も子供たちもたいへん気に入っている名前である。

学級の子の中に農家の子は一人もいない。かく言う私もトマト

などかつて一度も栽培したことがない。「土に親しみ、太陽・水・大地の恵みを野菜づくりを通して見直してみよう」と教育的意義をもつて提案。子供たちは「おもしろそうだ。それにどれ

園誕生記念コンサート」と銘打
ち、農園づくりをテーマに合唱、
合奏を披露、さらに、ナスの皮
の色素は水溶液の学習へと、野
菜づくりが子供たちの心を、活
動を盛り上げた。

「登りたい」と訴えてくる。幼児期は、興味、関心をもつたその時が指導の機会である。後になつては、興味は半減し、やる気をなくしてしまつ。三歳児は、その傾向が特に強い。

こんな日が続いた三日目のことである。

A black and white photograph showing a group of approximately 20 people, including children and adults, gathered in a garden. They are standing behind or sitting around a large, leafy green plant, likely a strawberry patch, which is the central focus of the image. The group appears to be participating in a community activity or field trip.

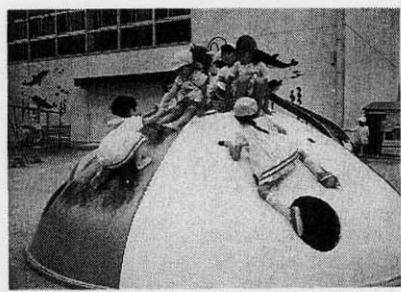
いちばん農園に通いつめたS
男は、いつも野菜づくりのアド
バイスをしてくれる校達員のお
じさんと大の仲良しとなつた。
また、音楽集会で「すくすく農

挑戦する力

廣幡幼
筒井治子

園庭の西側に、お椀を伏せた
ような形の通称「ツルツル山」
がある。三歳児の保育室からは
一番遠い場所であるが、四・五
歳児が楽しそうに登っているの

見ると、自分達も登れるもの
と思いこんで出かけていく。



どの顔も、「自分で登った」「やりたことができた」という自信と満足感で輝いている。これが、新たなことへの「挑戦の力」となっていくのだろう。

「先生、登れない。」「登りたい」と訴えてくる。幼児期は、興味、関心をもつたその時が指導の機会である。後になつては、興味は半減し、やる気をなくしてしまう。三歳児は、その傾向が特に強い。指導のチャンスである。

初めに私は、体は小さいが活動的なU子を押し上げた。半分位の所からは自力で登つた。M子は、手を伸ばして登ろうとするが、足には力をいれようとしてしない。そこで、手の平で頭を支えてやりながら、左右交互に押し上げていく。

Y子には、踵を支えながら登り、上から引き上げた。

A夫もK子も引き上げた。

登った事を喜び合う間もなく、「降りたい」「降ろして」「やい」と一齊に訴えてくる。降りる感覚がわからず不安でいいのだ。

「山」へばかりついてみると、小さいため中央にある穴に手が届かず、うまく登れない。

「たね」と認めながら、私は待つていてる子ども達を登らせる。どの子もすい分お尻が軽くなっている。自力で登れるようになる日も、そんなに遠いことではないだろう。

どの顔も、「自分で登った」「やりたいことができた」という自信と満足感で輝いている。これが、新たなことへの「挑戦の力」となっていくのだろう。

手をさしのべて、すべるよ
に話し、途中で抱きかかえて降
ろす。

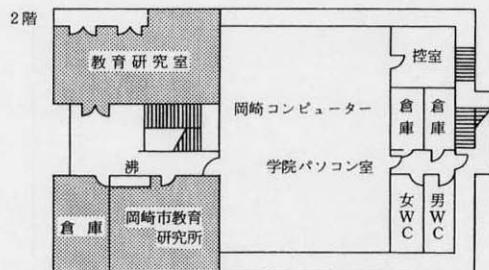
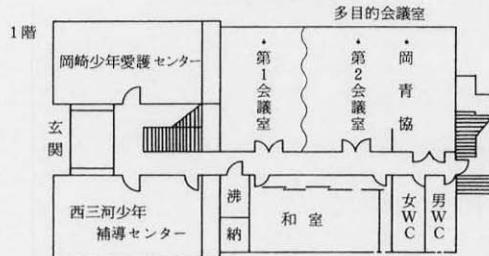
登った事を喜び合う間もなく
「降りたい」「降ろして」「こ
わい」と一齊に訴えてくる。降
りる感覚がわからず不安でい
ぱいなのだ。

登り、上から引き上げた。

手をさしのべて、するよ
うに話す。途中で抱きかかえて降

岡崎市教育委員会各部の利用にも供せられるので、市教委学校教育課指導係長（TEL二三一六四八九）までお問い合わせいただきたい。

六名会館平面図



岡崎市教育委員会事務局に併設されていた岡崎市教育研究所所が、昭和六十三年十月十日(月)をもつて、六名会館（旧労働文化会館）内に移転することになった。

教育研究所移転



岡崎一

秀 (矢東小)

○林 身長 一五五・九センチ

●体重 一四四・八キロ

岡崎一

特選 ○増田 胸囲 七七・五センチ

○田辺 胸囲 七七・五センチ

○山縣 胸囲 七七・五センチ

○吉田 胸囲 七七・五センチ

岡崎一

秀 (矢東小)

○川上 身長 一五九・一センチ

●体重 一五九・一センチ

○川上 身長 一五九・一センチ

岡崎一

秀 (矢東小)

○川上 身長 一五九・一センチ

●体重 一五九・一センチ

○川上 身長 一五九・一センチ

岡崎一

秀 (矢東小)

○川上 身長 一五九・一センチ

●体重 一五九・一センチ

○川上 身長 一五九・一センチ

岡崎一

秀 (矢東小)

○川上 身長 一五九・一センチ

●体重 一五九・一センチ

○川上 身長 一五九・一センチ

岡崎一

秀 (矢東小)

○川上 身長 一五九・一センチ

●体重 一五九・一センチ

○川上 身長 一五九・一センチ

特選 ○山内 勇吾 (愛宕小)

○岡村 慶正 (常磐小)

○矢田 英利 (北野小)

○大平 ますみ (藤川小)

○手島 淳子 (生平小)

○松村 美奈子 (常磐小)

○田島 有子 (細川小)

○山本 奈々 (矢西小)

○岩瀬 純子 (上地小)

○近藤 竜作 (竜美丘小)

○山下 直美 (北中)

○大須賀あい子 (竜海中)

○加納満津代 (東海中)

○安藤 千晴 (矢作中)

○田部 弥加子 (竜南中)

○荒川 早苗 (矢北中)

○山下 直美 (北中)

学而不厭

湯川博士の書

泉

東海中学校

學而不厭

湯川秀樹

東海中の校長室には「学而不厭」と墨書きされた湯川秀樹博士の額が掲げられている。これは、論語述而篇第七の「子曰く、黙して識り、学びて厭す、人に誨えて倦まず、我に於て何か有らん」の一節である。

昭和二十一年、新学制の施行に伴つて「東海中学校」が新たに設置され、二年余で新校舎の竣工を見るまでに整備された。折から、昭和二十四年に湯川秀樹博士は日本初のノーベル賞授賞の栄をなされ、国民を鼓舞するところとなつた。

「新しい学舎にふさわしい、新時代の中学校教育の指針となる言葉を次代を負う若人たちのために戴きたい。」

当時の伊藤安吉校長の意を体し、近藤正三教頭と角谷米三教諭が京都のお宅で懇請した。しばらくして、送られてきたのが「学而不厭」の一書である。

今も、入学式をはじめとしてことがあるごとに生徒たちに示されるのが「学而不厭」の四字である。また、「诲而不倦」を教師の自戒の語としている。

「新しい学舎にふさわしい、新時代の中学校教育の指針となる言葉を次代を負う若人たちのために戴きたい。」

当時の伊藤安吉校長の意を体し、近藤正三教頭と角谷米三教諭が京都のお宅で懇請した。しばらくして、送られてきたのが「学而不厭」の一書である。

今も、入学式をはじめとしてことがあるごとに生徒たちに示されるのが「学而不厭」の四字である。また、「诲而不倦」を教師の自戒の語としている。

・表紙写真
・カット
・表紙詩

山中小
城南小

滋野井貴子
松井伸一
杉浦正明

東海中の校長室には「学而不厭」と墨書きされた湯川秀樹博士の額が掲げられている。これは、論語述而篇第七の「子曰く、黙して識り、学びて厭す、人に誨えて倦まず、我に於て何か有らん」の一節である。

昭和二十一年、新学制の施行に伴つて「東海中学校」が新たに設置され、二年余で新校舎の竣工を見るまでに整備された。折から、昭和二十四年に湯川秀樹博士は日本初のノーベル賞授賞の栄をなされ、国民を鼓舞するところとなつた。

この本を

* 日本語 表と裏

森本哲郎

￥280

* ビルマ敗戦行記

荒木進

￥480

* 歴代天皇100話

林陸郎

￥1300

* 人はなぜ色にこだわるか

村山貞也

￥1000

* 頭のいい 叱りかた・叱られかた

私の方法

斎藤茂太

三笠書房

￥1000

私たちは、上司や先輩に叱られたとき、後輩を叱るとき、どのように対処したらよいのか、いつも悩むところである。この書は、新入社員の一人をモデルにし、あらゆる「叱り」のパターンを盛り込み、叱りかた、叱られかたの呼吸が、きめ細かに、ユーモラスに説かれている。

「叱り上手」「叱られ上手」になるための必読書である。



オガ屑の上に寝そべっている、体長二メートル余のおすの種豚。牧場主いわく「暑さが苦手でしめた所を選んで、体を冷やしているのです。お産の時、他人が見ていると興奮して仔豚をかみ殺してしまうめず豚もいますよ。」

家畜を飼育するにも繊細な心遣いが必要なことを改めて知る。

「あきつ」と、古名で呼んでみたくなりようなどんばに出会った。風に揺れる尾花の上を、軽やかに飛んでいく。空気は澄み、見上げれば空はあくまで高く、あくまで青い。しみじみと秋を感じた。

どの学区にもこういう風景はまだある。そこと指さして、子どもたちに秋を示してやりたい。

疾走。「用意、ドン!」ピストルの音とともに、まっすぐにゴールを目指す。風を切り、光の如く。百m走。自分の一秒にかける選手たち。今年もまた、陸上の季節がやってきた。檄を飛ばす声にも力の入る夕焼け空の下。誰が、どんな記録を残すだろうか。

澄んだ青空に向かつてスープとのびる組み体操の塔。「逆立ち、サボテン、三人扇、五人扇……」ピッピッと笛に合わせて動く子どもたちは真剣そのもの。総仕上げの塔を、くずしてはならないとがんばる子どもたちの顔はすばらしい。